

# ベトナム難民青少年と地域コミュニティ

浅野慎一

## 【はじめに：背景と現状】

ベトナム・ラオス・カンボジアで社会主義政権成立。144万人の難民流出。

日本：1975年、インドシナ難民が上陸。現在、日本に約1万人。（約4分の3がベトナム人）

定住促進センター：兵庫県（姫路市）・神奈川県（大和市）。

2000年、神戸市長田区でインタビュー調査。12～31歳のベトナム難民家族・青少年・37人。

【ベトナム生まれ】：①《前期来日層》、②《後期来日層》

【日本生まれ】：③《経済的安定層》、④《経済的不安定層》、⑤《絶対的貧困層》

## 【1. 生活史・職業階層と家族生活】

【ベトナム生まれ】：ベトナム南部に出生。

1980年代、兄・姉が難民として先に来日。

1990年代、家族呼び寄せで両親・きょうだいとともに来日。

家庭内：多様なベトナム文化を保持（食事、衣服、行事、家具、雑誌、音楽、言語等）。

《後期来日層》1995年以降に来日（滞日年数：概ね5年強）。

農村、貧しい農家出身。来日時、平均年齢15.5歳。ベトナムで就学経験あり。両親は高齢。

来日後、年長の兄・姉：靴製造工・港湾荷役等、不熟練労働で一家の生活を支える。

ベトナム文化を軸とした家族の結束、特に強固。

両親（高齢）：日本語ほとんど不可。子供達に「ベトナムの文化、ベトナム人の誇り」。

子供達：両親に従順。家庭内のベトナム文化・習慣が「好き」

《前期来日層》1988年～1995年来日（滞日年数：概ね10年弱）

都市、医師・コック・洋服屋等、比較的成功的都市自営業の家族に出生。

来日時、平均8.0歳。主に日本で就学。ベトナム語より日本語の方が得意。

来日後、両親：靴製造工等（内職を含む）として共働き。

ベトナム文化による家族統合：やや希薄化。

両親：子供達に「ベトナムの文化」より「しっかり勉強して良い学校に行くこと」を期待。

子供達：両親に概ね従順。BUT 一部に反発も。ベトナム文化＝「好きでも嫌いでもない」。

【日本生まれ】：1980年代、両親が難民として来日。

ベトナム文化を軸とした家族の統合・結束：希薄。子供達＝悩みを家族にあまり相談しない。

《経済的安定層》

父親：日本の電化製品・農機具等の中古品をベトナムに輸出、零細な貿易業を自営。

母親：靴製造工 or 専業主婦。

両親：子供達に「いい学校に進学すること」、「親の言うことを素直に聞くこと」等を期待。

子供達：親に「期待過剰」、「過干渉」等と反発。

BUT 親子の対立：あまり深刻ではない。ベトナム・日本の両方の文化：家族統合に有効に機能。

親子ともバイリンガル（またはそれに準じる）。スムーズに意志疎通。

両親：子供達にベトナムの文化・誇りの継承も期待。

子供達：それを当然と受け入れ。親の勧めでベトナムに留学したケースも。

《経済的不安定層》

両親：靴製造工等の共働き。パート、失業を繰り返しているケースも。生活：不安定。

家庭内のベトナムの文化・習慣：希薄化。

子供達：「ベトナム文化＝家族の疎外要因」とも受けとめ。

親：あまり日本語できず。子供：あまりベトナム語できない。親子＝意志疎通に支障。

両親：子供達に「ベトナムの文化・誇りの継承」より、「学費の安い公立高校に進学、中退しないこと」、「親の言うことを素直に聞くこと」等を期待。

子供達：家庭内のベトナムの文化・習慣に、「どーでもええって感じ」。無関心。

両親に対し、「もっと日本語を話せるように」、「働いてほしい」、過干渉等、不満。

《絶対的貧困層》

父親：離婚・拘置等で不在。母親：靴製造の内職。絶対的貧困。

母親：日本語ほとんどできず。子供：ベトナム語能力も最も低い。

言葉が通じず無視する子供。母親の苛立ち。

子供達：母親に対して多くの不満。「親には何も望めない」と諦め。

深刻な生活問題に直面。家庭内にベトナムの文化・習慣を保持するゆとりなし。

子供達：母親のベトナム語等わずかに残ったベトナム文化を「嫌い。うっとうしい」。

現実の家族生活の重圧。「両親が嫌い。特にお母さんが大嫌い」

## 【2. ベトナムとの関係・民族意識】

【ベトナム生まれ】：ベトナムでの生活を記憶。ベトナムに強い印象・思い入れ。

自分を「ベトナム人」と定義。日本の通名：不要。国籍もベトナムのままでもいい。

《後期来住層》こうした傾向が顕著。

多くの親戚がベトナムに居住・交際。

将来の希望：ベトナムでの起業・通訳等、ベトナムと関係する就職。

BUT ベトナムへの愛着・ベトナム人の自覚：来日後、異質性の自覚・ノスタルジーのアマルガム。

難民家族としてベトナム脱出。今すぐ帰国する気はない。

《前期来住層》ベトナムとの関係＝やや希薄。

ベトナムの親戚：遠縁。交流は両親の世代。

幼少時に来日。来日後のベトナム訪問で初めて「本物のベトナムに触れ」、ベトナムと日本の文化を  
合わせ持つ主体として再定義。

ベトナムに進出する日本企業に就職も。

日本の通名：「外側を変えても中身は変わらない」。2つの名前の併用も「全く問題ない」。

【日本生まれ】：ベトナムとの関係・ベトナムへの思い入れ：希薄。

ベトナムでの長期生活の体験少なく、ベトナムへの特別な印象、将来移住の意志なし。

日本の通名：すでに持っているか、「ほしい」。

《経済的安定層》

ベトナムに交際している親戚多い。ベトナムを何度も訪問。ベトナムに留学も。

自分を「日本人とベトナム人の中間」と定義。複数文化を合わせ持つ主体として肯定的に評価。

自らの国際性：学習や将来の夢の契機。人生の選択肢を広げる可能性の一つ。

《経済的不安定層》

ベトナムに交際している親戚少なく、ベトナムを訪れた経験あまりない。

自分：「日本人と同じ」。民族にこだわらず「普通」に生きたい。

日本の通名と本名を併用。「日本名だけでもいい」。

《絶対的貧困層》

ベトナムに交際している親戚が最も少ない。ベトナム訪問の経験あまりない。

自分：「日本人とベトナム人の中間」と定義。

BUT = 「中途半端な存在」という違和感、依拠すべき文化をもたない葛藤の表明、  
≠複数文化主体としての肯定的評価。

セミリンガル。

「日本人化」することで、中途半端な状態からの脱出したい。

家族の意思疎通が困難。∴ 通名をつける機会なし。「日本の名前・国籍がほしい」。

## 【3. 在日ベトナム人コミュニティ・地域の社会関係】

多様なベトナム難民家族の青少年＝地域で出会い、社会関係を形成。

コミュニティの主な契機：カトリック教会。

ベトナム難民の親の世代：言葉の壁。子供達が通訳の役割。

【ベトナム生まれ】：コミュニティの最も積極的な担い手。

在日ベトナム人に仲のいい友達が多数。

日本人の友達も多い。BUT 教会・ボランティアの日本人に限定。近隣とは文化習慣の違い→摩擦。

《後期来住層》

家族ぐるみの強固なコミュニティ。

日常の職場・学校・近隣の日本人との間には、言葉の壁。

日本人は「感情を出さないの、何を考えてるかわからない」、「人間関係が希薄」。

### 《前期来住層》

日本人との間に差異・言葉の壁：感じていない。

友達や相談相手：日本人にも多い。

BUT 日本人との接触：差別や好奇の眼差しにさらされることと表裏一体。

→「ベトナムはいやだ」と感じるようになる人も。

BUT 同時に、日本人と出会い→自己を肯定的に捉え直すケースも。

### 【日本生まれ】：

ベトナム人より日本人の友達の方が多く、大部分は学校・職場・近隣の日本人。

カタカナの名前をからかわれたり、喧嘩のときに「ベトナム帰れ」。差別体験も多い。

### 《経済的安定層》

日本人・ベトナム人を問わず、悩みの相談相手・家族ぐるみで交際している相手あり。

### 《経済的不安定層》

ベトナム人だけの組織には参加しない。

バイク・カラオケで遊ぶ同世代の日本人の仲間。

日本人の仲間と同様、学校生活や自らの将来に鬱屈・不安。「悩み」と自覚せず、誰にも相談しない。

仲間との関係が強固。∴ 差別体験：最も少ない。

### 《絶対的貧困層》

日本人・ベトナム人を問わず、友達が最も少ない。

深刻な悩み。BUT 「人に相談してもムダ」。

カトリック教会にも通わず、ベトナム人コミュニティから意識的に距離。

### 【まとめ】

#### ①ベトナム難民：多様な主体。≠同質・一枚岩。

《経済的安定層》&《前期来住層》：多文化的主体。多文化共生。

《後期来住層》：ベトナム人だけ同質的コミュニティで閉鎖的生活。

《経済的不安定層》：日本人の労働者仲間と交流。民族なんて無関係。（≠異文化理解・多文化共生）

《絶対的貧困層》：貧困・孤立。「ベトナムは嫌い。日本人になりたい」。

#### ②地域のカトリック教会・ボランティア・民族コミュニティ：大きな役割。

BUT 《経済的安定層》《前期来住層》《後期来住層》が中心。肯定的評価。

《経済的不安定層》《絶対的貧困層》：接点は希薄。

#### ③ベトナム難民家族の青少年：家族が大きな意味。

BUT 様々な危機：【日本生まれ】の家族：親子間で言葉の壁。意志疎通が困難。

特に《絶対的貧困層》：家族解体・家族への絶望・諦観。

【ベトナム生まれ】も含め、既存のベトナム文化に基づく家族の統合・結束の維持には限界。

→言語教育の充実、経済的安定の保障が不可欠。

#### ④様々なタイプの主体とそれに対応した様々な矛盾の輻輳。

特に《経済的不安定層》《絶対的貧困層》：

民族・エスニシティ：尊重すべき文化的個性というより、階級的矛盾に埋め込まれた属性の一つ

《経済的不安定層》：最も身近な仲間＝同じ階級の日本人青少年

《絶対的貧困層》：ベトナム文化の嫌悪＝経済的貧困や生活展望のなさの発露。

異文化理解・多文化共生を超えて

グローバリゼーションの渦中で危機に瀕した地域社会における

民族・国籍の違いを超えた階級的矛盾と連帯。

### 参考文献

- ・「ベトナム難民家族の青少年の生活と社会関係(1)(2)(3)－階級・階層とエスニシティ－」新垣正美・浅野慎一・中島藍 『神戸大学発達科学部研究紀要』10-2、11-1、2003
- ・「ベトナム難民家族の青少年の生活とアイデンティティ」新垣正美・浅野慎一 『地域社会学会年報』第14集ハーベスト社 2002